

学校のために何を成すことができるのか

これから生徒会本部役員選挙・立会演説会に臨む立候補者11名は、立候補以来、朝や昼休みの挨拶運動をはじめとした選挙活動を継続してきました。よく頑張りました。また、先日の討論会のことも記憶に新しいです。それぞれが学校の課題を自分の言葉で考え、意見として発表してくれました。そして、互いの意見を尊重し、皆で高め合おうとする姿に頼もしさを感じることができました。これからの富士見中学校の未来も明るいです。

また、その選挙活動を裏方として支えた多田彩人委員長をはじめとした選挙管理委員のおかげさまで、本日の立会演説会・投票を迎えることができます。ありがとうございます。

さて、ここでは、今から60年以上も前、アメリカ合衆国・第35代大統領に就任したジョン・F・ケネディが演説した言葉を紹介したいと考えています。それは「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい」という言葉です。この「国」を「学校」に置きかえてもう一度読んでみます。「学校があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが学校のために何を成すことができるのかを問うて欲しい」となります。皆さんは、この富士見中学校の一員ですから、学校が定めている約束やルールの中で、学校生活を送ることは言うまでもなく大切なことです。でも、それだけでなく、富士見中学校をよりよくするために、自分が富士見中学校のために何ができるのかと考え、行動することも大切なのです。

今一度、先日の討論会の場面を振り返ってみます。学校の課題として「朝読書の時に、本以外のものが机の上にある」「先生との距離が近く、言葉遣いがよくない人がいる」「体育着のシャツ出しをしている人がいる」などが挙げられました。それに対し、立候補者の皆さんは、自分には何ができるのか、どんなことが提案できるのかという意見を出し合いました。先ほどのケネディ大統領のお話と重ねると、そういうことが大切なんですよ。もっと言えば、それを自分一人の意見にするのではなく、みんなで取り組めるように、進むべき方向を指し示し、全員で進んでいけるよう、気を配り、時には励ましの声をかける人の存在も必要です。それがリーダーなのだと思います。

これから行われる立会演説会を通して、候補者のリーダーシップを感じ取って下さい。念のために確認ですが、6月の生徒総会でもお話した通り、リーダーを支えるフォロワーの存在が大切です。フォロワーシップとは「集団の目的を達成するため、リーダーを積極的に支援することができる力」でしたよね。よいフォロワーがいて、初めてリーダーが生かされます。リーダーとフォロワーがそれぞれの役割を果たすことで相乗効果が発揮されます。皆さんの大切な一票を、富士見中学校の未来を考え、投じてください。